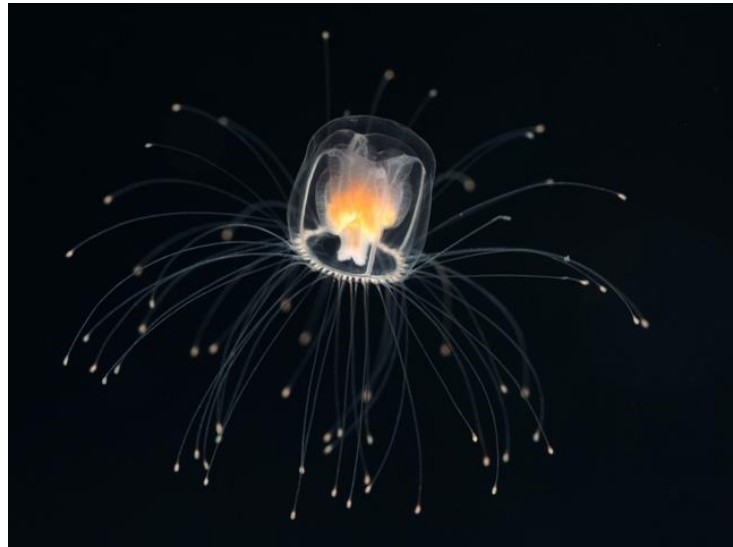


不老不死のニホンベニクラゲを展示 若返りの様子をモニターで紹介します

大阪市港区の海遊館では、平成 27 年 10 月 21 日（水）から、館内 3 階「ふあふあクラゲ館」で、「ニホンベニクラゲ」（傘の高さ約 6 mm、直径 5 mm 前後、約 100 匹）を展示します。クラゲとしての寿命は短いため、展示の期間は短くなる見込みです。

ベニクラゲの仲間には、老衰後に若返りをする能力が確認されており、「不老不死のクラゲ」と呼ばれます。一般にクラゲの仲間は、成熟し子孫を残した後、徐々に衰弱して海中に溶けてしまいますが、ベニクラゲの仲間は特別で、衰弱した後、クラゲの成長段階である“ポリプ”と呼ばれる状態に“若返り”し、その“ポリプ”から再びベニクラゲが生まれます。今回の展示では、ベニクラゲの若返りを実験で立証し、不老不死のメカニズムについて研究されている京都



ニホンベニクラゲ

大学准教授の久保田信氏の協力を得て、若返りの様子をモニターでわかりやすく紹介します。また、今回展示する「ニホンベニクラゲ」は、鹿児島県で採集された個体で、久保田氏が 2014 年に未記載種（まだ和名や学名がついていない）であることを確認し、その和名に「ニホンベニクラゲ」を提唱したばかりです。

「ニホンベニクラゲ」の展示は海遊館では初めてとなります。海遊館では、この小さくかわいらしいクラゲの不思議な生活史を紹介すると同時に、まだまだ謎の多い不老不死のメカニズムに関する研究にも関心を持っていただけたらと考えています。